

青年部から未来のために

For the future From 青年部

No. 1

日教組青年部ニュース 2007 第1号を発行

8月に日教組青年部総会が開催され、2007から2008年度の運動方針が確認されました。総会では26本もの討論が出され、各単組のとりくみや職場実態等が交流され、議案が補強されました。

多くの単組青年部では、青年部員の減少や職場の多忙化などから、青年部の活動が従来どおりではいなくなっていること、反面、大量採用時代に入り、組織拡大や運動の継承をどう図っていくかが課題になっています。そのような状況をどう脱却していくのか、その試行錯誤のとりくみが職場の実態を踏まえて報告されました。

総会議案でも、「日教組青年部ニュースを発行します。」という方針をあげています。あらためて総会の決定を原点に、ニュースを発行し、全国の青年部のとりくみなどを報告できればと思っています。

2007日教組青年部総会

日にち：8月25日（土）10：00～16：00

場 所：日本教育会館

出 席：52単組 代議員52人（傍聴2名）

あいさつ**日教組代表（山本潤一副委員長）**

日教組結成60年を迎えた。当時から日教組は労働条件だけでなく、教育環境の整備に先輩たちがとりくんできたことは誇りである。これからの運動にとって参院選挙の勝利は1つの条件であり、これが

ら大事であり、運動を盛り上げなければいけない。青年部のみなさんのとりくみに期待します。

日教組青年部長（賀来）

- 中央情勢、また全国的な教育を取り巻く現状
- 忙しいからこそ、仲間の思いや自らの働き方、様々な社会情勢、教育実践など、青年が集い、語っていく「気付きの場」をつくっていかなければならない。
- 工作上必要な会話はされているが、お互いを高め、刺激し、共感し合う「対話」があるだろうか。職場はもちろんのこと、様々な人たちと対話を通じてそれぞれの課題を共有していこう。
- 運動の弱さも出し合いながら2年間の総括し、運動方針を活発な討論で補強し、全国の仲間と共に私たちの日教組青年部運動をつくっていこう！

討 論

一般討論では、4つの柱について、合計26本の討論が出されました。

(1) 組織強化・拡大に関するとりくみ

(5本)



① 【東京高】

「見える組合」をキーワードに官制研修のアンケートを実施した。そこで出された課題をもとに都教委に要請したことや初任研に関する発言について抗議したことを青年部員に報告した。一人の声が都教委に届いていることを実感できた。

八丈島でサマーセミナーを開催した。島にいる青年たちと交流した。「八丈島にいきたい」という不純な動機かもしれないが、青年部だからこそ、思いつきから私たちの運動へ結びつけることができたのではない。

② 【山梨】

青年部で文化祭や実践研修を開催し、毎回8割が参加している。しかし、どんなに工夫をしても10割ではなく、8割になっている。青年から「活動を減らすべき」という不満がいつも出る。しかし、いったん活動を縮小しだすと一気に崩れる。だから、なんとかしようとみんなで話している。一人分会や0人分会が増えているので、各ブロックに1回以上は交流会を持とうと訴えている。

③ 【茨城】

教員免許更新制が導入されるようになったが、「いつそうなったのか」と知らない青年部員が多く、情報が届いていないという課題が明らかに。青年部ヒューマンネットワークという行事を立ち上げた。組合の意義や獲得した権利、教育行政の現状や中央情勢という学習会の柱と、生徒指導や教科指導など教職員としてのスキルアップなどワークショップで学ぶことを柱に、毎月支部を持ち回りで開催している。

組織力の強化をめざして全班長会議でも意思統一して行きたい。

④ 【福岡】

福教組フェスタを開催している。参加者を増やそう1,000人を目標にし、組合員以外の人にも呼びかけている。この会は各支部持ち回りで開催しており、今年の開催支部は、青年部員の少ないところだけど、その支部に何度も通い、とりくみを通じて組織強化を図ることができている。近年、支部青年部員が少なく、声かけが難しいところもでてきたが、支部に積極的に関わり、参加体制の工夫と知恵を出し合っ

⑤ 【大分】

少子化に伴う採用数減で青年部員が減少している。「青年部はいらないのではないか。」「基本に任せたほうがいいのか。」「組合に生活を壊される」という声が出される。その中で、活動の見直し、青年部年齢の見直し、採用者増のとりくみと三つの柱で運動を提起している。全国でそれぞれの単組事情を抱えながら、がんばっている地道な努力を日教組青年部から発信してほしい。また、対話を大切にする青年部運動を広げていくために、みんなで知恵を出し合いながら運動をつくっていききたい。



(2) 民主教育の実現に関わるとりくみ

(5本)

① 【岩手高】

青年部教研で、「障害」児教育に関わる実践報告があった。それは保護者と連携してやっていくとりくみで、これに対して様々な意見が出された。懇親会の中でも学校でのとりくみの話が出された。仲間のつながりから実践が交流され、充実させていくことが大切だ。会話でなく、対話できる青年部のとりく

みの必要性を感じる。

② 【千葉】

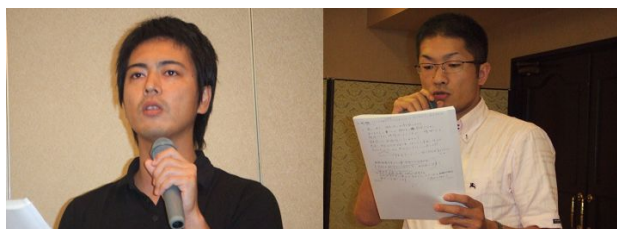
千葉県では群発地震が起きているが、教育界もゆれているのでは。民主的な職場づくりから民主的な教育の確立につなげていくことが大切。また、青年部として、青年部員一人ひとりが主体的にとりくんでいくために、「1分会1実践」にとりくんでいる。

③ 【茨城】

学校の宿泊行事があっても、官制研修を優先しなければならず、研修が終って夜から参加したり、中体連の試合は研修のために監督不在で試合をしなければならなかったという実態がある。交渉の結果、教育センターに申し出て許可をもらえば学校行事に参加できるようになった。今後もアンケートで声を拾いながら交渉につなげていきたい。

④ 【兵庫】

大量退職時代を迎え、約 1/4 が入れ替わる状況。10 年後の学校を支えるのは私たち。その私たちが現場を支えるようにならなければいけない。そのために、昨年から青年部教研を開催し、年2回行っている。2回とも同じ分散会に参加し、今年は、1回目は、学力問題について現場の組合員を講師に招き、ざっくばらんに話をした。2回目は各自がレポートを持ち寄り交流した。様々な職種の方の参加で人権や学級づくり、どう実践しているかなど学ぶことができた。今後は支部ごとに独自の教研のとりくみができるようになればいいと考えている。



⑤ 【福岡高】

全寮制の「障害」児学校にいたが、今、特別支援教育の方向性は地域とどうつながるか、セーフティネットとしての教育をつくれと国は言っているのに、国自ら政治でどんどんそれを壊している。地域

でつながる実践をしていくために、組合で学んだことがとても役に立っている。その中で保護者の声に気づかされることがある。教育はボトムアップだなと感じた。組合運動から学んだ視点が実践に生きていることを職場で話して組織につなげたい。



③ 賃金・労働条件に関するとりくみ

(8本)

① 【福島】

30 人学級が始まったが、定数を変えたわけではなく、その分講師が増えた。今は担任をどんどん持たされている。「力のある」講師は同じ学校に3年入られるようになった。そんな力があるなら採用しろと言いたい。そのせいで講師の勤務の評価が実働化されている状況がある。

② 【東京】

「主幹」を希望する人が少なく、その定員に足りないので制度を変えると都教委が言っている。今後管理統制がさらに強化され、若い教職員は管理職の圧力に従わざるを得ない状況。05 年、新宿で採用2ヶ月の新採用者の自死。多忙の中で対話ができないのが一つの原因。多忙で先輩たちも職場で声をかけられていない状況。そういった状況をアンケートする中で組織拡大につながってきている。

③ 【長野】

部活を社会体育への移行という方向性が示されているが、へき地や山間地は金も人材もないなかでどうやって社会体育へ移行していくのか。財政基盤づくりを文科がするべきだ。

6月の賃金支払日から住民税が増えた。年金のこともよくわかってない青年教職員が多い。先日「共



⑤ 【広島高】

⑥ 【大分高】

⑦ 【鹿児島】

⑧ 【岩手】

(つづく)

(文責:青年部長 賀来)

[illegible]

<<<<<<<<<<<<<<

Email kaku_hiroki@jtu-net.or.jp

[illegible]